

令和5年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・基礎的な漢字の読み書きや言葉の学習は、十分な定着が見られた。
- ・話題の中心を捉え、メモをしながら聞くことができる児童が多い。
- ・物語文では登場人物の心情を、説明文では要旨を読み取る力が定着している児童が多い。

(2) 課題

- ・自分の考えを明確にして、内容のまとまりを考えて段落の構成をすることに難しさを感じる児童が多い。
- ・課題に対して、自分の意見をもったり、それを相手に伝えられるように文章で表現したりすることができる児童が少ない。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	全体の正答率は、目標値を0.5ポイント上回った。 書く領域は目標値を下回り、文章を書くことができていない。		
第5学年	全体の正答率は、目標値を2.5ポイント上回った。 書く領域は、課題が見られる。特に文章を書くことについては、目標値を大きく下回る。	正答率は、目標値を7.1ポイント上回った。 書く領域は全項目で目標値を下回り、特に自分の考えを、事例をあげながら説明する文を書くことができていない。	
第6学年	全体の正答率は、目標値を8ポイントほど上回った。 多くの項目で10ポイントほど上回っているが、書くことと読むことの領域は5ポイント程度にとどまっている。	目標値と同程度の正答率だった。書くことに苦手意識を感じており、書く領域のすべての項目で目標値を下回っていた。	正答率は目標値を4ポイント上回ったが、書く領域の問題は項目によっては目標値を20ポイント以上下回ったものもある。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な漢字の読み書きや言葉の学習は、身に付いている。一方で、2段落で構成された文章を書くことに課題がある。	物語文や説明文の内容の読み取りの力は身に付いている。しかし、文章の中から中心となる語を見つけたり、それを使って要約したりすることには課題がある。	自分の考えとそれを支える事例を書く問題の正答率が低い。課題に対して、主体的に考え、自分の意見をもつことが苦手な児童が多いと考えられる。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な漢字の読み書きや言葉の学習は、身に付いている。一方で、段落のまとまりを意識して書いたり、文章構成を捉えたりす	物語文で登場人物の心情を読み取ることはできる。説明文の読み取りでは、読み取ったことを自分の考えと結び付けたり、要約し	自分の思いや考えを表現する問題は正答率が低くなっている。無回答が多いことから、苦手意識を感じる児童が多いと考えられ

ることに課題がある。	たりすることは苦手である。そのため、自分の意見や考えを書くことに課題がある。	る。
------------	--	----

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・語彙を習得させるために、読書の時間を確保し、身近なことを表す語彙の量を増やす。 ・授業中の音読を続け、一人一人が音読できているか確認する。 ・主語と述語を対応させるために一文を短く書く指導を繰り返す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で感じたことや考えたことを明確にし、順序だてて話せるように、事柄の中心を明確にできるようにする。 ・文章を書く力を向上させるため、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えられるようにする。 ・自分が書いた文章を読み直す時間を設定し、推敲する習慣が身に付くようにする。 ・問いかけと答えの関係を捉えさせるため、理由を表す言葉に注目して説明文を読んだり、文章を書いたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すすんで読書を行う児童を増やし、学習の中で獲得した語彙を生かすことができるようにする。 ・物語の本を手取るよう、声をかけていく。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えとその理由及び事例などの2段落構成で文章を書くことができるようにする。 ・主語と述語の関係を確認し、主語と述語が照応した文章を書くことができるようにする。 ・授業感想など、短文を書く機会を多く設定し、書く経験を積む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書く内容の中心を明確にし、それを基に内容のまとまりで段落をつくることができるようにする。 ・中心となる語や文を見つけたら傍線を引かせるようにして、話題の中心を考え、要約することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に伝わるように文章で自分の考えを表現し、書いた文章を読み合い、認め合う学習を積み重ねることで、達成感を感じることができるようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・論の展開や筆者の主張を読み取る指導を繰り返し、文章全体の構成や要旨をつかめるようにする。 ・主語と述語の関係や修飾関係の文の組み立てを確認する。 ・授業感想やお題に対して短作文を書く経験を積む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手意識、目的意識をもち、伝えたいこととその理由が明確になるように文章の構成を意識して、書くことを指導する。 ・書いた文章を友達と交流する活動を増やし、互いのよさを認め合ったり、上手な書き方を取り入れたりすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材開発や授業での発問の工夫を行い、分かる楽しさを味わうことができる工夫を行っていく。 ・書いた文章を友達と交流する活動を増やし、書き上げた達成感を感じることができるようにする。

令和5年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・コロナ禍もあり、実際に見学に行くことはできなかったが、ICT を活用したり、電話でインタビューをしたりすることで、学習の定着率が上がった。
- ・資料から読み取れることは何か、そこから自分がどう考えるかを分けて考えることで、事実をつかむ力、自分の考えを表現する力の両方に成長が見られた。

(2) 課題

- ・資料を比べたり、そこから分かることを考えたりする力が十分に定着できていない。
- ・他の地域や国との関わりを身近なものとしてとらえることができていない。
- ・高学年になるにつれて、見学や体験等の身近な学習から、資料の読み取りを中心に行う学習へと移行することもあり、社会科の学習自体への意欲が下がり、知識の定着が不十分だった。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	全体としては目標値を0.1ポイント下回った。基礎は1ポイント下回り、活用は2.5ポイント上回った。		
第5学年	全体としては目標値を0.8ポイント上回った。基礎は0.9ポイント下回り、活用は5.4ポイント上回った。	全体としては目標値を3ポイント上回った。また、前年度より4ポイント上回った。	
第6学年	全体としては目標値を2.1ポイント上回った。基礎は0.6ポイント上回り、活用は6.6ポイント上回った。	全体としては目標値を1ポイント上回った。基礎は2ポイント上回り、活用は1ポイント下回った。	全体としては目標値を1ポイント上回った。また、前年度より2ポイント上回った。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値より0.8ポイント下回った。 「安全なくらし」では、火事から人を守るための施設・設備や交通事故の現場で行う仕事についてはよく理解していた。	目標値より1ポイント上回った。 「店ではたらく人」では、販売の仕事に見られる工夫についてよく思考し、表現できていた。	目標値より2.5ポイント上回った。 「安全なくらし」や「店ではたらく人」の単位では、高い意欲が見られた。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5年生は、目標値より1.2ポイント上回った。	5年生は、目標値より0.1ポイント上回った。	5年生は、目標値より5.4ポイント上回った。

6年生は、目標値より1.3ポイント上回った。 「都道府県の様子」では、都道府県の位置や名称が理解できていた。	6年生は、目標値より3.7ポイント上回った。 「情報を生かした産業」では、産業における情報活用についてよく考えることができていた。	6年生は、目標値より6.6ポイント上回った。 5年も6年も態度面では、どの単元も目標値を上回っていた。
---	--	--

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 副読本や地図帳、絵地図などの資料をさまざまな場面で活用する場を設定する。 自分で必要な情報を探し出せるよう指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料からわかることをノートにまとめたり、話し合ったりできるようにする。 単元のまとめ方を新聞やタブレット、すごろくなど、多様な方法で行うようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ校外学習や見学などの体験的活動が実施できるようにする。 タブレットに写真を送り、その写真に書き込みを入れる活動などでも学習への意欲を高めていく。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 教科書や地図帳、資料集をさまざまな場面で活用できるようにする。 調べたことを以前学習したこととつなげられるよう印を付け、振り返る場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料を比較・総合してわかったことをノートにまとめたり、話し合ったりすることができるようにする。 学習したことをまとめる際に、教科書・地図帳・資料集などから自分の伝えたいことを表す資料が選べるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 政治の学習では、模擬選挙を行うなどの体験的な学習を行う。 タブレットを活用し、他の人の意見がわかる機能を使い、話し合い活動を行うことで学びの意欲を高めていく。

令和5年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・レディネステストの分析情報を教員間で共有し個々の児童の習熟について確認を行って、習熟度別クラスの設定、実態に合わせた進度内容にしたことで、思考・判断・表現の伸びがあった。

(2) 課題

- ・毎時間、基礎基本の定着と応用問題への適用に取り組めるよう、少人数指導の展開の仕方についてさらに検討を重ね充実させていく。
- ・主体的に取り組めるよう、コースごとの実態に応じた課題の設定を検討していく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	全体の正答率は、目標値を4.8ポイント上回った。数と計算領域における正答率の伸びが鈍い傾向にある。		
第5学年	全体の正答率は、1ポイント下回った。特に図形・データの活用領域での正答率が低い傾向にある。	全体的に目標値を上回っている。しかし、伸び率は全領域下がっている。	
第6学年	全体の正答率は、目標値を4.4ポイント上回っているが、問題別で見ると分数の計算のみ唯一目標値を下回る結果となった。	数と計算では、前年度は和と差が目標値を上回っていたが、積と商で目標値を8ポイント程度下回った。 4年生では、正方形・長方形の面積を求める問題だったが、5年生では平行四辺形の面積となったため図形の正答率が18ポイント下回った。	全体の正答率は、7ポイント上回っている。領域別で見ても上回ってはいるが、測定領域の目標値に対する正答率が他の領域に比べ低い。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
-------	----------	---------------

<p>基本的な計算は概ね習得している。しかし、分数の数直線上での表し方についての理解・除法（余りあり）文章問題での正答率が低い。分数と整数の関係、数直線の読み取り、除法における、商や余りの意味や処理の仕方についての理解に課題が見られる。</p>	<p>量と測定領域である「長さ・重さ」の単位変換の正答率が極端に低かった。mmとcmそれぞれの単位関係についての理解に課題が見られる。記述式での回答は、目標値、全国正答率を大きく上回った。これは、日々の学習で自分の考えを表現する指導を重点的に行った成果と考えられる。</p>	<p>目標値、全国正答率を共に上回っている。また短答、記述式の正答率も高く、粘り強く考える姿勢が見られる。しかし、学習したことを生活に生かそうとする態度に関しては意識が薄い傾向にある。</p>
--	---	--

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>折れ線グラフの読み取り・図形の性質・分数の計算など既習事項の理解が不十分である。棒グラフの読み取りの復習をしたり様々な図形の作図をしたりと既習事項に立ち戻った練習が必要である。</p>	<p>全国と比較して同程度か上回る結果を示している。しかし、記述による回答は下回っている。筋道を立てて考え、根拠を明確にして説明することが困難である。</p>	<p>全国と比較して算数の学習自体に困難さを感じている児童が多い。また、論理的に考え、解決に導くことが難しい。解決に用いる既習事項を引き出したり、筋道立てて考えをすすめたりして最後までたどり着くことができていない。</p>

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・加法、減法の適用について、具体物や半具体物を操作したり、絵や図に表したりして、身体と頭で問題解決ができるようにする。例えば、加法では合併、増加の違いを分かった上で計算ができるよう、半具体物での操作で表せるようにする。 ・既習事項を、日常の場面や他教科での学習で意図的に用いることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算の仕方や方法を児童が考え説明することや、それを考えながら聴くことを通して、思考力や判断力、表現力を高めることができるようにする。 ・児童が自分の考えを振り返ったり整理したりして、筋道を立てて考えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の振り返りをし、それを教師が評価し価値付けすることで、考える楽しさや大切な考えに気付くことができるようにする。 ・様々な教具を用いたり、学び方を工夫したりすることで、学ぶ楽しさを味わうことができる学習を展開する。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
-------	----------	---------------

<ul style="list-style-type: none"> ・分数と整数、小数の数の関係について、統合的にとらえられるよう、数直線を用いて数感覚を身に付けさせていく。 ・除法の意味や商と余りのとらえ方について、具体的な場面を生活と関連付けながら理解できるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単位関係については、既習事項と関連付けて考えることで、見通しをもち解決をすすめる指導を展開していく。 ・自分の考えを説明したり、友達と検討したりする場を多く設定し、思考力や表現力を高め、理解を深めていく。 ・児童の発言に対して問い返しをすることで、自分の考えを振り返ったり整理したりして、理解を深めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コースごとの実態に合わせた課題を設定したり、学習方法や教材を工夫したりする。 ・一人でじっくりと考える場を設定する。 ・どの既習事項を用いればよいか考えることができるようにする。 ・学習の振り返り（学習感想）をし、それを教師が評価し励ますことで、次時への意欲を喚起し学ぶ楽しさを味わうことができるようにする。
--	---	--

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに前学年に立ち戻った練習をしたり既習事項（例：分数の通分約分と倍数約数など）と関連付けて考えたりする場を設定する。 ・図形の作図を継続的に指導し、苦手意識を軽減する。 ・既習事項を、日常生活の場面や他教科での学習で、意図的に用いていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を活用して課題を解決できるよう、見通しをもつ場を設定する。 ・自分の考えを説明したり、友達の考えを自分の考えと比べながら聞いたりするなど、目的に応じてペアやグループ活動を効果的に取り入れるようにする。 ・児童の発言に対して問い返しをすることで、自分の考えを振り返ったり整理したりして、理解を深めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コースごとの実態に合わせた課題を設定したり、学習方法や教材を工夫したりする。 ・一人でじっくり考える場を設定するとともに、対話をするすることで学習の楽しさを実感できるようにする。 ・どの既習事項を用いればよいかを自ら判断し、考えることができるようにする。 ・学習の振り返りをして、それを教師が価値づけることで、考える楽しさや大切な考えに気付くことができるようにする。

令和5年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・実験活動に取り組むことを中心に授業を展開していることで、児童の理科学習への興味や関心が高まった。

(2) 課題

- ・結果から考察し、結論を導き出すことが苦手である。
- ・自分の考えを表現するスキル（言葉、図など）が育っていない。
- ・植物との関わりが不足していることから、自然事象への関心及び知識理解が乏しい。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	平均正答率は、区・全国とも上回った。しかし、磁石・電気の問題のうち、目標値より10ポイント以上下回ったものがある。		
第5学年	平均正答率が目標値を大きく下回った。特定の単元ということではなく、全単元に渡り目標値よりも10ポイント近く下回っている。	平均正答率が目標値に達した。しかし、磁石の性質の項目は目標値より10ポイント以上下回った。	
第6学年	平均正答率が目標値に達した。単元別に見ると、植物の発芽と成長や顕微鏡の使い方はわずかに目標値を下回っている。	平均正答率が目標値に達した。しかし、電気のはたらき、月と星の項目は目標値より5ポイント下回った。	平均正答率が目標値に達した。しかし、磁石の性質の項目は目標値より5ポイント下回った。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・多くの問題で、目標値を上回っている。 ・基礎的・基本的な事柄の理解が不十分なところが、正答率から窺い知れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3観点の中で比べるとこの観点の正答率が低くなっている。 ・実験結果や状況から類推して、何が分かるのかを問う問題に苦手意識が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内正答率は総じて平均よりも高い。 ・自然に関する問題の正答率が高いが、それ以外の分野では、正答率が落ち込んでいる。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・5年生は目標値を大きく下回った。単元別に分析すると天気の様子と気温や電気のはたらきの正答率が低い。 ・6年生は目標値をわずかに上回っている。問題別に分析すると、顕微鏡の使い方は正答率が低い。機器の使い方について理 	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生は目標値を3ポイント下回った。記述形式の問題が苦手な傾向が見られ、問題解決学習における「結果」「考察」をまとめることへの取り組みについて見直しが必要である。 ・6年生は目標値より2ポイント上回っている。単元別に分析す 	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生は目標値を大きく下回った。単元による特徴がなく、児童の多くが理科への苦手意識が芽生えてきている。 ・6年生は目標値を大きく上回った。単元別に分析すると植物の発芽と成長、ふりこのきまりの正答率が低い。実験など、体験

解したうえで、実験に取り組む必要がある。	ると植物の発芽と成長、ふりこのきまりの正答率が低い。理科のものの見方・考え方「条件制御」を用いた実験結果から、考察をすることへの取り組みについて継続的に取り組む必要がある。	的授業を展開することが難しい自然現象に関わる単元への苦手意識が見られる。
----------------------	--	--------------------------------------

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 基本的な言葉や名称をきちんと身に付けさせるために、学習の中で積極的にその言葉を使って表現するよう促す。 事象を実際に体験する活動を増やし、実体験から物事を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 理解したことや学習した言葉を使って友達に説明する場を設け、状況や考えていることを言語化できるようにする。 3年生は差異点や共通点をもとに問題を見出すこと、4年生は既習内容や生活経験をもとに根拠のある予想や発想をすることに重点を置いて指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に実験や観察に取り組むことができているが、楽しみが先になってしまいがちなので、この実験から何を知りたいのかを明確に意識させて取り組ませる。 観察・実験が難しい単元では、映像や師範実験を通して理解を深めていく。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 実験や観察を通して、知識や技能への理解を深める。活動が体験的に終わるのではなく、児童の知識となるように、問題解決の過程を意識した学習を行う。 理科の実験器具の使い方について、適切な使い方が定着できるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験や観察の際、事象について予想をたて、実験に取り組むようにする。 実験結果から考察をする活動の際、十分な時間を確保する。問題解決の過程で用いる、5年生の「条件制御」や6年生の「多面的な考え」など「考え方」を整理し、結果を基に考察する時間を十分にとる。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習の内容や生活体験を手掛かりに、実験や観察を取り入れることで、児童が主体的に問題解決に取り組む意欲をもつことができるようにする。 児童の実態から、実験や観察が難しい単元を苦手とする傾向が見られるため、タブレット端末を使い、動画や画像を取り入れた学習指導を行う。

令和5年度 生活科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・導入を工夫することで、「～したい」という思いを引き出し、児童の意欲・関心を高めることができた。
- ・1年生と2年生で実施した学校探検と遠足は、児童にとって充実した活動となった。
- ・2年生は、スクールタクトを活用することで、一人一人の考えを共有することができた。

(2) 課題

- ・ICT機器を導入した学習をすすめたが、十分に活用することはできなかった。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第一学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・学校探検や花を育てる活動を通して、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わりに気付くことができるようにする。 ・学校内や多摩川河川敷に出かけて遊ぶ場を設定し、生活上必要な習慣や技能を身に付けることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校庭探検や学校探検を通して、身近な人々、社会及び自然と関わる機会を多くつくり、自分とどのような関係があるのか意識できるようにする。 ・経験したことや発見したこと分かったことなど絵や文、言葉などで表現できるように、適切な助言をする。 ・友達の考えや思いに気付けるように全体で共有する場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人々、社会及び自然に、自分から接近できるよう、児童のやりたいことや願いをもって活動できるようにする。 ・児童がやりたいことを実現できたという満足感や達成感を味わい、自分のよさや可能性に気付けるよう、児童の実態に合わせた課題設定をする。

(2) 第二学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・町探検や野菜を育てる活動を通して、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わりに気付くことができるようにする。 ・身近にある物からおもちゃを考えたり、作って遊んだりする場を設定し、動くおもちゃの不思議さ、楽しさ、みんなで遊ぶ面白さに気付くことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町探検を通して、身近な人々、社会及び自然と関わる機会をつくり、自分とどのような関係があるのか意識できるようにする。 ・自分たちの住む町のよさを相手や内容に合わせて、クイズや新聞、劇などで表現できるように、適切な助言をする。 ・友達の考えや思いに気付けるように全体で共有する場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人々、社会及び自然に、自分から接近できるよう、児童のやりたいことや願いをもって活動できるようにする。 ・児童のやりたいことが実現できたという満足感や達成感を味わい、自分のよさや可能性に気付けるよう、児童の実態に合わせた課題設定をする。

令和5年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・どの学年も音楽活動全般に意欲的に取り組んだ。
- ・日頃の学習の成果をグループやクラス単位で発表することにより、音楽を創り上げる喜びや達成感、充実感を味わわせることができた。
- ・児童の実態に合った教材の設定や様々な学習形態を取り入れることで、個人の基礎的スキルや鑑賞能力の定着を図ることができた。

(2) 課題

- ・楽器演奏におけるスキルの習得には、個人差がある。
- ・スキルが定着していても、曲想にふさわしい豊かな音楽表現ができる児童は少なく、表現することに自信がもてない様子も見られる。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・歌唱、器楽、音楽づくりの各スキルを身に付けるために、個人の習得状況を把握した上で、継続的な取り組みやペア学習、必要に応じた個別指導などを取り入れ、習熟度を高めていく。</p> <p>・曲の感じや音楽の要素に気付くことができるよう、常時活動での反復練習やICT機器の効果的活用、既習事項と関連付けることで知識の習得を深められるようにする。</p>	<p>・歌唱、器楽、音楽づくりの各活動を通して、どのように表現するかについて思いをもつために、情景を想像したり楽曲の気分を感じ取ったりできるようにする。</p> <p>・曲や演奏の楽しさや美しさを味わって聴くために、身体の動きのある活動を取り入れ、感じたことを言葉で表現できるようにする。</p>	<p>・楽しく音楽活動に取り組むために、発達段階や児童の実態に合った魅力的な教材の設定や、学習の成果を発表したり互いのよさを認め合ったりする活動を取り入れる。</p> <p>・友達と協働して音楽活動をする楽しさを感じながら様々な音楽に親しみ、創り上げる喜びを味わうことができるようにする。</p>

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・歌唱、器楽、音楽づくりの各スキルを身に付けるために、個人の習得状況を把握した上で、継続的な取り組みや、ペアやグループ学習、必要に応じた個別指導などを取り入れ、習熟度を高めていく。</p> <p>・曲の特徴や音楽の要素を理解するために、既習事項との関連付けやICT機器を効果的に活用することで知識の習得を深められるようにする。</p>	<p>・歌唱、器楽、音楽づくりの各活動を通して、どのように表現するかについて思いや意図をもつことができるようにする。歌詞の内容や曲想に加え、音楽を形づくる要素を感じ取ることで、自ら表現に生かせるようにする。</p> <p>・曲や演奏のよさを見だし味わって鑑賞するために、視点を明確にして音楽の要素や構造に気付き、その上で自分の考えや感じたことを表現できるようにする。</p>	<p>・すすんで音楽活動に取り組むために、発達段階や児童の実態に合った教材の設定や、学習の成果を発表したり互いのよさを認め合ったりする活動を取り入れる。</p> <p>・友達と協働して音楽活動をする楽しさを感じながら様々な音楽に親しみ、創り上げる達成感を味わうことができるようにする。</p>

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・歌唱、器楽、音楽づくりの各技能を身に付けるために、個人の習得状況を把握した上で、継続的な取り組みや、ペアやグループ学習、必要に応じた個別指導などを取り入れ、習熟度を高めていく。・曲の雰囲気や特徴を捉え、音楽の要素を理解するために、既習事項との関連付けやICT機器を効果的に活用することで知識の習得を深められるようにする。	<ul style="list-style-type: none">・歌唱、器楽、音楽づくりの各活動を通して、どのように表現するかについて思いや意図をもつことができるようにする。歌詞の内容や曲想に加え、音楽を形づくる要素を感じ取ることで、自ら表現に生かせるようにする。・曲や演奏のよさを見だし味わって鑑賞するために、視点を明確にして音楽の要素や構造に気付き、その上で自分の考えや感じたことを表現できるようにする。	<ul style="list-style-type: none">・主体的に音楽活動に取り組むために、発達段階や児童の実態に合った魅力的な教材の設定や、学習の成果を発表したり互いのよさを認め合ったりする活動を取り入れる。・友達と協働して音楽活動をする楽しさを味わいながら様々な音楽に親しみ、創り上げる達成感や充実感を味わうことができるようにする。

令和5年度 図画工作科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・どの学年の児童も、意欲的に活動する児童が多い。
- ・様々な材料や表現方法を経験し、自分なりの表現方法を模索しながら選び取っている。
- ・友達の作品のよいところを見付けたり、よさを認め合ったりする雰囲気が出てきた。

(2) 課題

- ・美術作品などの鑑賞の機会が少なく、鑑賞活動に親しんだり、作品を深く鑑賞したりすることが難しい児童が全体的に多い。
- ・友達の作品のよいところを見付けられても、なかなか声をかけられない児童もいる。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・造形遊びや絵や立体、工作に表す活動を通して、形や色などに気付き、表し方を工夫して表すことができるようにする。 ・身近な材料や用具を安全に配慮しながら、十分に慣れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・造形遊びや絵や立体、工作に表す活動を通して、楽しく発想や構想をしたり、身の回りの作品から自分の見方や感じ方を広げたりできるようにする。 ・何を表したらよいか困っている児童に、個別に適切な助言をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく表現したり鑑賞したりする活動を通して、つくりだす喜びを味わえるようにする。 ・互いの作品を鑑賞させ、友達の作品のよさを認め合える時間を設定する。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・造形遊びや絵や立体、工作に表す活動を通して、形や色などの感じが分かり、表し方を工夫して表すことができるようにする。 ・身近な材料や用具を安全に配慮しながら、適切に扱えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・造形遊びや絵や立体、工作に表す活動を通して、豊かに発想や構想をしたり、身近にある作品から自分の見方や感じ方を広げたりできるようにする。 ・何を表したらよいか困っている児童に、個別に適切な助言をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すすんで表現したり鑑賞したりする活動を通して、つくりだす喜びを味わえるようにする。 ・互いの作品を鑑賞させ、友達の作品のよさを認め合える時間を設定する。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・造形遊びや絵や立体、工作に表す活動を通して、形や色などの造形的な特徴を理解し、表し方を工夫して表すことができるようにする。 ・身近な材料や用具を、安全に配慮しながら活用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・造形遊びや絵や立体、工作に表す活動を通して、創造的に発想や構想をしたり、親しみのある作品から自分の見方や感じ方を広げたりできるようにする。 ・何を表したらよいか困っている児童に、個別に適切な助言をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に表現したり鑑賞したりする活動を通して、つくりだす喜びを味わえるようにする。 ・互いの作品を鑑賞させ、友達の作品や美術作品のよさや美しさを認め合える時間を設定する。

令和5年度 体育科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・体育を楽しんでいる児童が増えた。
- ・苦手な児童に声をかけたり、教えたりする児童が増えた。
- ・互いに見合ったり、教え合ったりする姿がたくさん見られた。
- ・運動に対する視野が広がり、ルールを工夫しながら取り組む姿が見られた。

(2) 課題

- ・体力テストでは、50m走は平均値を上回っているが、それ以外の運動については、平均値を下回っている。休み時間や体育の学習でいろいろな動きを経験させていく必要がある。
- ・体づくり運動では、ぎこちない動きをする児童が多く見られる。運動のポイントを伝え、繰り返し運動する必要がある。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動では、運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、体を動かす心地よさを味わったり、基本的な動きを身に付けたりするために、様々な運動遊びの場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊び方の工夫を考えられるよう、運動遊びの場や用具を複数設定したり、工夫する視点を提示したりする。 ・考えたことや気付いたことを友達に伝えることができるよう、言葉や動作で伝える機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動遊びにすすんで取り組むことができるよう、成功回数が多くなる簡単な運動遊びを取り入れたり、できたことを称賛したりする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動では、運動遊びの楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、体を動かす心地よさを味わったり、基本的な動きを身に付けたりするために、様々な動きを組み合わせた運動を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題を見付け、その課題を解決する工夫を考えられるよう、運動の行い方を掲示物やタブレットで提示し、選べるようにする。 ・気付いたことや大切だと思ったことを友達に伝えることができるよう、学習カードやタブレットを活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動にすすんで取り組むことができるよう、ペアやグループを組み、友達の動きを真似できるような環境をつくる。 ・児童が自ら適した場を選び積極的に運動に取り組めるよう、いろいろな難易度の場を設定する。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動では、運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、体を動かす心地よさを味わったり、体の動きを高めたりすることができるようにするために、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の体の状態や体力に応じて、運動の行い方を工夫することができるよう、タブレットを活用して運動のポイントを確認できるようにする。 ・自己やグループで考えた運動の行い方を他者に伝えることができるよう、学習カードやタブレットを活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に積極的に取り組むことができるよう、運動の記録をとったり、わずかな変化を称賛したりして、自己の体の動きの高まりに気付くことができるようにする。 ・自分たちで場や用具を考え、運動に取り組むことができるようにする。

令和5年度 家庭科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・学んだことを実生活に生かす課題に取り組み、振り返りの時間を設定することで、家庭での仕事に目を向けられるようになってきている。
- ・技能習得に個人差があることを踏まえ、個別指導の時間を設けたところ、主体的に取り組む姿勢が見られるようになった。
- ・ICT機器を効果的に使用することで、手縫いやミシン縫いにおける技能を視覚的に捉えることができ、技能の習得につながった。

(2) 課題

- ・家庭内での関わりが少なく、家庭生活に興味や関心をもつことが難しい児童が多い。
- ・学習内容を、日常生活の場に生かすことができている児童が少ない。

2 授業改善のポイント（観点別）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・既習事項を関連付けて考えたり、それを繰り返し活用したりしながら、知識や技能の確実な定着を図る。・基本的な技能は、ICTを活用し、視覚的に理解できるようにする。	<ul style="list-style-type: none">・自分の生活経験を見つめ直し振り返る活動を通して、家庭と関わる経験の大切さを知り、自分の考え方を分かりやすく伝えることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none">・ICTを活用し、学習への興味関心を高めるとともに、家庭科で学んだことを主体的に実生活に生かせるよう、自ら課題を見だし、解決を図る活動や実践を振り返る活動が充実したものになるようにする。

令和5年度 外国語科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・正しい発音にこだわってしまったり、リアクションの仕方に抵抗感があったりして、積極的になれない児童が一定数いたが、抵抗感が薄まって英語での表現が分からなくても、伝えようとする気持ちが高まった。
- ・昨年度、授業後の振り返りがなかなか深まらない児童が多かったが、授業のゴールを明確に示すことで、ゴールに対する振り返りを意識するようになってきた。

(2) 課題

- ・反復練習する時間が十分に取れず、身に付けたい表現（キーセンテンス）が定着していない。
- ・覚えている単語の量が少なく、表現したいことを伝えられない。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・身近なものの単語の問題は正答率が高かった。 ・can/cannot を使った文章の正答率が低かった。 ・例文を参考にしながら、身近な人についての簡単な語句や基本的な表現を用いて書く問題の正答率が低かった。 	(第5学年時)	(第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 低学年

授業での様子
<ul style="list-style-type: none"> ・自ら相手に関わり、発音したり話したりして取り組める児童が多い。 ・多くの児童が挨拶や感謝など、簡単な語句や基本的な表現を使って、コミュニケーションを図ろうとしている。

① 中学年

聞くこと	話すこと
<ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な意味の表現が分かっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と簡単な挨拶をした後、自分や相手の好みや欲しい物などについて、簡単な質問をしたり質問に答えたりして、主体的に相手と関わろうとする児童が多い。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
-------	----------	---------------

<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習で、発音したり書いたりする頻度が高いものは身に付いていることが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> 他者を紹介する文章を作る問題では、語順を意識しながら書くことができない。 	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的な児童が多く、ゲームの要素の強い活動にすすんで取り組む。 発音したり話したりする活動を繰り返すことで、できるようになったという自信をもっている児童が多い。
--	--	---

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

<ul style="list-style-type: none"> 歌やチャンツ、話しながら体を動かす活動を取り入れ、話す楽しさ、コミュニケーションがとれる楽しさを大切にした授業づくりをする。 同じ単語や表現を、繰り返し発音したり話したりする経験を積み、外国語で話せた実感を味わうことができるようにする。

(2) 中学年

聞くこと	話すこと
<ul style="list-style-type: none"> ゆっくりはっきり話すように努め、おおよその内容が推測できるように、具体的な場面設定をする。加えて、慣れ親しんだ別の語句や表現に言い換えたり、動作やイラスト、写真を添えたりするなどして、「聞いて分かった」という喜びや達成感を味わえるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 外国語を使って、自ら友達と関わる児童が多いので、さらに自信をもって楽しんで取り組めるように、ゲームや遊びの要素を入れたり、交流する時間を多く取ったりして、コミュニケーションの楽しさを実感できるようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 四線を使った書く指導を継続し、繰り返し外国語を書く経験を積めるようにする。 肯定、否定の平叙文や命令文などについて、日本語と英語の語順の違いに気付かせるとともに、基本的な表現として、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れる。 語順を意識して伝えられるように、例文を繰り返し発音したり、チャンツで発話したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> キーセンテンスを示したり、教師が話し方の模範を示したりして、表現の仕方、伝え方を指導し、場面に応じて適切に使い分けられるようにする。 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を生かして新しい内容の学習ができるようにする。 アクティビティを検討し、学習に対する意欲が持続できるようにする。 友達に伝えたり、自分で練習したりする時間を取り、繰り返し発音したり話したりしてできたと感じられる経験を重ね、自信をもって活動できるようにする。